

東洋美術史 ご担当者様

*臨川書店 新刊案内*2月下旬発売!

ソグド人の美術と言語



曾布川 寛 京都大学名誉教授(中国美術史)

◆中国・東洋美術の図像学的研究の第一人者。著書・編著に『崑崙山への昇仙』(中公新書)、『中国美術の図像と様式』(中央公論美術出版)、『世界美術大全集東洋編 秦・漢』『同 三国・南北朝』(小学館)など。

吉田 豊 京都大学文学部教授(イラン語史、中央アジア出土文献研究)

◆昨秋、世界で初めてマニ教「宇宙図」の図像を発見し、全国紙各紙で注目。著書・著作に『イラン語断片集成』(法蔵館)、「ソグド語資料からみたソグド人の活動」(『岩波講座世界歴史』11)など。

シルクロード交易の民 ソグド人とは いったい何者だったのか?

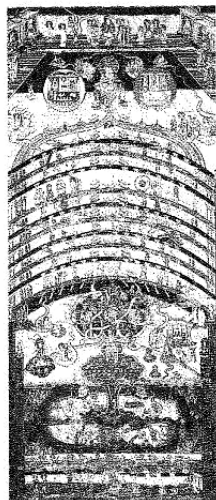
漢唐時代、シルクロードの東西文化交流の担い手となっていたソグド人とはいったい何者だったのか。中央アジアのソグディアナを根拠地として交易の民として栄えた、今なお謎の多いソグド人の実態を、中国で近年発見されたソグド人墓の屏風画、サマルカンドの宮殿壁画、唐代の人々があこがれたソグド金銀器、貴重なソグド語文献から明らかにする。

■ A5判・上製・336ページ 定価3,780円(税込)
ISBN978-4-653-04049-1 C1070

新刊委託配本のご注文は
2月16日までにご返信ください

マニ教「宇宙図」現存

国内で個人蔵 京大教授ら確認



3世紀に誕生し、善悪二元論を教義として世界的な宗教に発展しながらも滅びたマニ教の宇宙観を描写したと思われる絵画が国内に存在する。26日までに、京都大学の吉田豊教授(文献言語学)らの調査で分かった。10層の天と8層の大地からなるというマニ教の宇宙観の全体像が、ほぼ完全な形で確認されたのは世界で初めて。

マニ教は布教に教典のほか絵画も使っていたとされるが、絵画は散逸。宇宙観は教義の根幹につながるもので、今回の発見を公表し、国際マニ教学会で「画期的」と断定した。

マニ教の宇宙の全体像を描いたとみられる絵画(吉田豊・京都大教授提供)

高い評価を受けた。吉田教授は不明な点が多いマニ教の解明につながる」と話している。

吉田教授が「宇宙図」と呼ぶこの絵画は、現在国内で個人が所蔵している。縦137・1センチ、横56・6センチで、絹布に彩色で描かれている。仏教絵画との比較などから、中国の元(1271〜1368年)、またはその前後に、現在の浙江、福建省など江南地方の絵師が制作したとみられるという。

日本に渡った時期などは不明。吉田教授らは、マニ教僧侶の特徴である赤い縁取りの入った白いシヨールを着た人物が描かれていることや、中国・新疆ウイグル自治区で見つかっているマニ教史料との照合などから、マニ教の絵画

毎日新聞 2010年9月27日朝刊

番線印	貴店名	ご担当者名	TEL
新刊	ソグド人の美術と言語		冊注文
	臨川書店 FAX 075(781)6168		本体3,600円+税 ISBN978-4-653-04049-1 C1070
	〒606-8204 京都市左京区田中下柳町8 TEL075(721)7111 www.rinsen.com		